

お茶の水女子大学百年史

「お茶の水女子大学百年史」刊行委員会

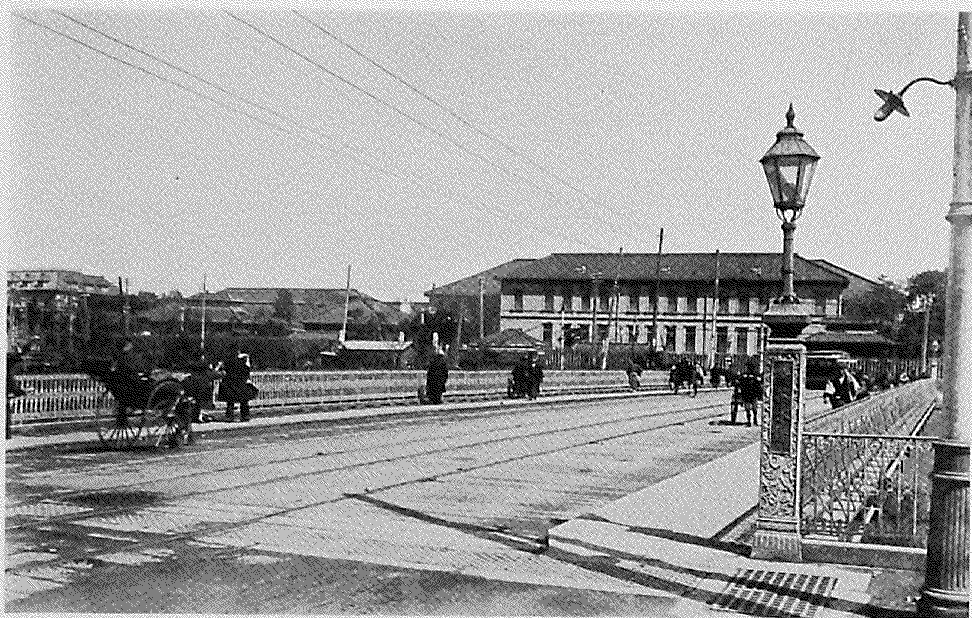




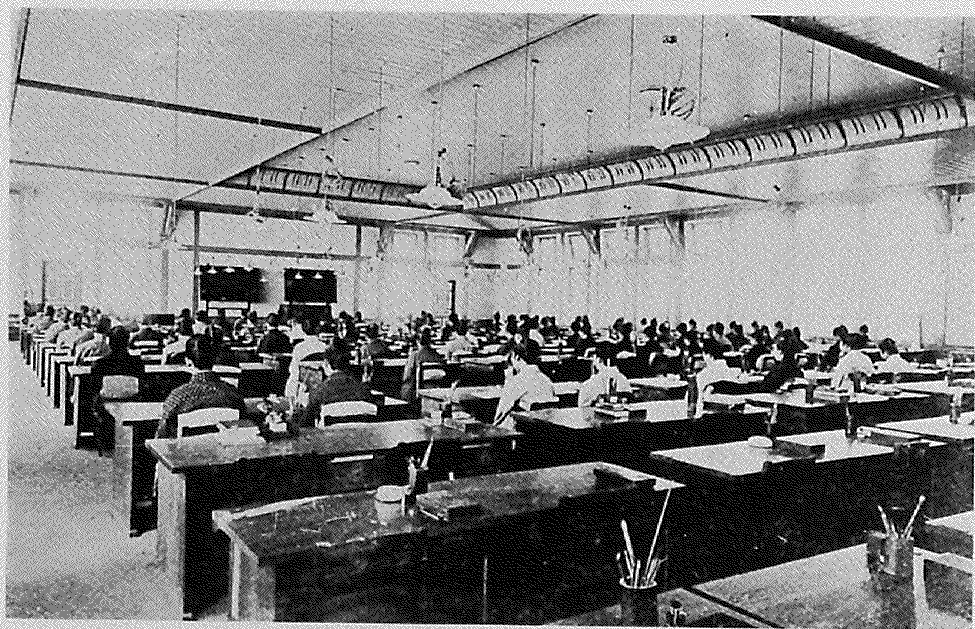
女子師範學校

別
名
競

壁原國全筆



御茶の水橋と本校（明治40年頃）



講義風景（大正初期）



関東大震災後の校舎（大正12年）



大塚の新キャンパス
（昭和8年頃）



寮での送別会(昭和19年秋)

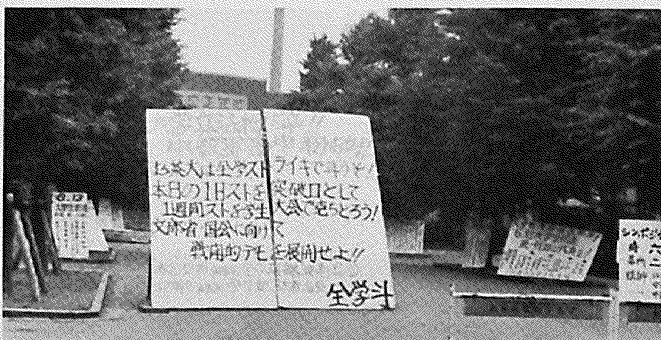


本館と渡り廊下(昭和25年頃)

山の上の団欒
(昭和35年)



大学紛争時代
(昭和44年)



現在のキャンパス(昭和58年)

刊行のことば

お茶の水女子大学の百年間の歴史は、わが国女子の最高学府として歩み続けた、苦闘と栄光の女性史である。

一世紀を越えた本学の歴史は、明治八（一八七五年）十一月、東京市本郷区湯島三丁目二四番地、現在の国電御茶の水駅の北方の地に、政府によって設立され開校した、東京女子師範学校に始まる。その設立は、女子の学校教育を普及させるための、女子の教員養成を目指したものであった。この学校が、のちに、女子高等師範学校に昇格して、附属の高等女学校とともに、長く「お茶の水」の通称で親しまれるようになってきたのであり、さらに、現在大塚の地へ移転したにもかかわらず、この学校の後身である本学が「お茶の水女子大学」の名称を有しているのは、このような由来があるからである。

明治四十一（一九〇八）年に東京女子高等師範学校と改称するまでの約二十年間は、本校が官立ではわが国唯一の女子高等教育機関であったことから、教職以外に、学問研究や他の専門職を志す生徒までもここに活路を求めるようになってきて、たとえば、本邦女医第一号を当時の卒業生のなかに見出せるなど、本学百年の歴史に特有のキャラクターを付加した時代と考えられている。さらに明治四十五年には、本校大講堂で一般市民に公開の第一回女子通俗講話会が開かれ、入場者約二千名をみるなど、今日の公開市民講座の嚆矢を当時において見ることができるのである。

関東大震災のち、昭和三年十一月、本校は大塚に移転を開始し、この時から本学の歴史は大塚に始まる。そして、教育、研究を余すところなく寸断したあの苛烈な戦争も遂に終息し、動員、疎開の地から三々五々帰校してきた生徒

たちが、教官とともに、寒空の下で教育の再開を涙を流して喜びあった姿もまた、本史の伝えるところである。

女子教育の振興は、終戦直後からの日本政府の方針であった。文部省は、国立大学について一府県一大学の原則を入れて、昭和二十三年六月、新制国立大学実施要綱を定め、そのなかで女子大学に関しては、女子教育振興のため、とくに国立女子大学を東西二か所に設置したのであった。昭和二十四年五月、国立学校設置法が公布され、新制国立大学、六十九大学が発足したなかで、単独に昇格した小規模大学の例も数少ないが、本学が、とくに、名実ともに女子の最高学府であったという長いあいだの伝統と自負を背景に、専門の学術を教授、研究する女子の国立総合大学に昇格したことは、当時の教職員、生徒、卒業生一同の大きな喜びであった。

本学は新制お茶の水女子大学としてその歴史を刻み続け、昭和五十二(一九七五)年十一月一日、創立百周年記念式典を挙行した。想えば、本学百年の歴史は必ずしも平穏のそれではなかった。女性の行く手を阻む厚い障壁をもつものもない先人先輩の、今日想像も及ばぬ刻苦と精励とによって、附属幼稚園から大学院人間文化研究科(博士課程)まで、本学の今日の輝かしい姿が誕生し、育成されてきたのである。今、この来し方をさらにのり越えて、本学の新しい歴史を創造するところに、本学の未来がかけられているのであり、この百年史刊行の意義もまた、そこに存在するものである。

最後に『百年史』刊行に御尽力いただいた、学内外の各位に深甚の謝意を表する次第である。

昭和五十九年三月

お茶の水女子大学長

藤 巻 正 生

凡 例

- 一、重要事項には西暦年を（ ）内に入れた。
- 二、人名のあとには、必要に応じて西暦による生没年を入れた。
- 三、古い文体の引用文については、原則として原文のままとしたが、読み易くするため、句読点や濁点をつけ、漢文体は書き下し日本文体に改め、ふりがなを付したものである。また、漢字は新字体に改めた。
- 四、出典は必要最少限度にとどめ、出版元の記述は省略した。
- 五、引用文中の（ ）は、引用者の注記である。また、明らかな誤りは訂正し、疑義がある箇所には（ママ）と傍注した。
- 六、書名、雑誌名、文書綴等は『』（欧文はイタリック体）で示し、論文名、パンフレット等は「」で示した。
- 七、記述内容は、原則として昭和五十年（創立百周年）までとしたが、必要に応じてそれ以降にも言及している場合がある。

目次

刊行のことば

凡例

総説

第一章 東京女子師範学校時代 三

第一節 創立 三

開校の時と場所(一) 設立の意義(二) 開校の準備(三) 開校式(四)

第二節 東京女子師範学校から東京師範学校女子部へ 一六

創立期の様子(一) 予科の制度(二) 附属学校・幼稚園の開設(三) 国粹主義の動き(四) 事務組織の整備

(五) 東京師範学校女子部となる(六) 森有礼と東京女子師範学校(七)

第三節 生徒の生活と卒業後 三九

志願者・入学者・卒業生などの概要(一) 寄宿舎生活(二) 服装(三) 女生徒の舞踏会(四) 生活史の断面

(五) 卒業生の生き方(六)

第二章 女子高等師範学校時代……………六

第一節 高等師範学校女子部の成立……………六

国立女子高等教育機関(六二) 教育の実際(六三)

第二節 女子高等師範学校時代……………六

分立(六四) 教官定数と事務分掌の整備(六五) 教育勸諭と女子高等師範学校(六六) 明治二十四年の学則制定(六七) 校長の交代(七二) 女子中等教育の発展と女子高等師範学校(七三) 明治二十七年の本校教育要旨と選科の設置(七五) 専修科と保姆練習科・保育実習科の設置(七七) 三分科制の実施と研究科の設置(八二) 事務分掌規程の改正(八四) 「新式の一大寄宿舎」の落成(八四) 明治三十六年の規則改正(八七) 第六臨時教員養成所(八七) 學術談話会・如蘭会・校蔭会(九〇)

第三節 生徒の生活と卒業後……………六

入学者の概要(九五) 「女子の最高学府」ということ(九六) 卒業生・中途退学者と卒業後の概況(二四) 新しい生き方(二七)

第三章 東京女子高等師範学校時代……………三

第一節 新発足……………三

校名の変更(二三) 外国人特別入学規程の制定(二三) 明治四十三年・大正三年・同八年の規則改正(二五) 校地の拡張、校舎の改築と事務機構の整備(三〇) 教育実習の制度(三三) 入学者決定のしくみ(三三) 一部・二部制の廃止と選修学科目の設置(三三) 学資支給制度と卒業生服務制度の変遷(四〇) 通俗講話会と女子教育研究部(四三) 開校四十年分立二十五年記念式(四七) 学問の府(四七)

第二節 移転と整備……………二五

関東大震災と仮校舎の時代(二五) 事務組織の改編(二六) 大塚の新校地(二六) 寄宿舎の移転(二六) いわゆる「女高師問題」(二六) 「思想問題」の経過(二六) 「女子師範大学」問題の発生と消滅(二七)

第三節 戦時の東京女子高等師範学校……………二六

昭和二年・四年の学科課程改正(二六) 戦時の学科課程改正と体育科の新設(二七) 師範教育令改正と家政科および各学科課程の改正(二八) 昭和十九年学科課程改正と教職員数(二九) 日本文化講義その他(二九) 東京特設中等教員養成所・東京女子臨時教員養成所の設置(三〇) 集団勤労作業から学徒勤労動員へ(二九) 如蘭報国会・特設防護団・習熟工場(三〇) 選修制の発展(三〇) 本校の戦災(三〇) 戦時体制の解除(三一)

第四節 生徒の生活と卒業後……………二七

概況(二七) 大正「民本主義」のもとでの生徒の生活(二八) 戦時下の生徒の学習と寮生活(二八) 学徒勤労動員令下の生徒の生活(二八) 昭和二十年八月本校通学生の日常(二九) 生徒の卒業後の生活概況(二九) 社会事業に生きる(二九) 「思想問題」その後(三〇) 「美奈子」の生き方(三〇) 外国人留学生の「東京女子高等師範学校」史(三一)

第四章 お茶の水女子大学の成立……………二九

第一節 第二次世界大戦後の教育改革とお茶の水女子大学の発足……………三〇

戦後教育改革における女子教育問題(三〇) 旧制大学令による国立女子大学の設立計画(三一) 米国教育使節団の報告と女子教育(三一) 女子教育研究会と女子大学連盟および大学婦人協会(三二) 教育刷新委員会と新制大学(三二) 大学基準の制定(三二) 新制女子大学の創設(三三) 「東京国立女子大学」設置認可の申請(三三) 「お茶の水女子大学」の名称と発足(三三) 附属学校・幼稚園の改編と新設(三四) お茶の水女子大学開学記

念式とレッド・ページ(三二)

第二節 お茶の水女子大学の整備充実

三二

家政学部独立と音楽教育学専攻の設置(三三) 運営機構の整備(三三) 事務機構の整備と定員・予算の変遷(三九) 学則など諸規則の制定と大学初年度各学部学科課程(三三) 教務委員会など各種委員会の設置(三三) (東京女子高等師範学校の廃校(三五) 学科課程の改訂(三五) 幼稚園教員臨時養成課程の設置とその廃止問題(三六) 学長の選挙と交代(三六) 入学試験制度(三六) 一般教育の性格とその発足(三六) 総合コース(三七) 教職課程(三八) 現職教育の実施(三八) 専攻科の設置と廃止(三八) 附属図書館の新築・移転(三八) 家政学部附属食物化学研究施設の設置(三九) 理学部附属臨海実験所の設置その他(三九) 保健管理センターの設置(三九) 自治会と学生補導の問題(三九)

第三節 学生の生活

三七

戦争終結直後の頃(三七) 自治会の発足と研究班の活動(三七) 微音祭(文化祭)の移りかわり(四〇) 学寮問題(四〇) 就職・アルバイト(四〇) 奨学援護(四三) 生協および学生会館問題(四三) 学生自治会の活動と学生運動の経過(四三) 最近の状況(四三) 婦人の職業と専門研究者(四三)

第五章 お茶の水女子大学の発展と現状

四四

第一節 大学院修士課程の設置その他

四四

旧学制および新学制における大学院制度(四四) 大学院家政学研究科(修士課程)の設置(四四) 大学院理学研究科(修士課程)の設置(四五) 創立九十周年記念式(四五) 大学院人文科学研究所(修士課程)の設置(四五) 家政学部家庭経営学科の設置(四五) 制度検討委員会および制度改革委員会(四五) 学長の選挙と交代(四五) 入学者選考制度の改革(四五) 大学設置基準の改訂と学部履修規程の改訂(四六) 外国人留学生(四六) 女性

文化資料館(四六七)

第二節 大学院人間文化研究科(博士課程)の設置その他……………四六七

大学院設置基準の制定と大学院制度の整備(四六七) 本学における人間文化研究科(博士課程)設置の趣旨(四六八)
人間文化研究科の専攻と講座の要旨(四七〇) 人間文化研究科の開設(四七二)

第三節 お茶の水女子大学の現状……………四七四

大学の現状(四七五) 学生・卒業生の現況(四七五) 百年の歴史を顧みて(四七六)

各 説

第一章 文教育学部……………五〇三

第一節 総 記……………五〇三

旧制時代の文科(五〇三) お茶の水女子大学文教育学部(五〇五) 大学院人文科学研究科(修士課程)(五〇六)

第二節 哲 学 科……………五二〇

「修身」「倫理」から「哲学科」へ(五二〇) 哲学科の創設(五二〇) 学生教育・研究(五二二) 哲学科の発展(五二二)
学生教育・研究のその後(五二三) 教官の研究活動(五二四)

第三節 史 学 科……………五二八

旧制の時代(五二八) 史学科の創設(五三〇) 史学科の発展(五三二) 教官の研究活動(五三三) 学生教育・研究(五三四)

第四節 地理学科	五二六
----------	-----

旧制の時代(五二六)	新制大学発足以降の地理学科の発展(五二七)	教官の研究・教育活動(五二八)	学生の教育と卒業生の活動(五二九)
------------	-----------------------	-----------------	-------------------

第五節 文学科	五三三
---------	-----

I 国文学国語学専攻	五三三
------------	-----

旧制の時代(五三三)	新制大学発足と本専攻(五三五)	大学院修士課程の設置(五三七)	雑誌『国文』など(五三八)	教官の研究活動(五三九)
------------	-----------------	-----------------	---------------	--------------

II 中国文学中国語学専攻	五四〇
---------------	-----

旧制の時代(五四〇)	新制大学の発足と本専攻(五四二)	学生の教育・研究(五四三)	教官の研究活動(五四四)
------------	------------------	---------------	--------------

III 英文学英語学専攻	五四五
--------------	-----

沿革(五四五)	教官の研究活動(五四六)	学生の教育・研究・その他の活動状況(五四七)
---------	--------------	------------------------

IV 仏文学・仏語(仏文学仏語学専攻)	五四三
---------------------	-----

沿革(五四三)	教官の研究活動・学科の現状(五四三)
---------	--------------------

V 独文学・独語	五四四
----------	-----

旧制の時代(五四四)	新制大学の発足と独文学・独語(五四五)	教官の教育・研究活動(五四六)
------------	---------------------	-----------------

第六節 教育学科	五五七
----------	-----

I 教育学専攻	五五七
---------	-----

旧制の時代(五五七) 教育学科の創設と本専攻(五五九) 創設期の教官の研究活動(五六〇) 学生教育(五六二) 大学院修士課程成立以前の変遷(五六三) 修士課程の設置(五六三) 修士課程成立後の推移(五六五) 教官のその後の研究・教育活動(五六六)

II 表現体育学専攻……………五六七

旧制の時代(五六七) 新制大学の発足と体育学専攻(五六八) 学生教育・研究(五六九) 舞踊教育学専攻(修士課程)の設置(五六九) 教官の研究活動(五六九)

III 音楽教育学専攻……………五六四

旧制の時代(五六五) 音楽教育学専攻の創設(五六六) 音楽教育学専攻の発展(五六七) 教官の研究活動(五六八) 学生教育・研究(五六九)

第二章 理学部……………五六〇

第一節 総記……………五六〇

旧制時代の理科(五六三) お茶の水女子大学理学部(五六二) 大学院理学研究科(修士課程)(五六四)

第二節 数学科……………五六六

旧制の時代(五六六) 数学科の創設から現在まで(五六七) 教官の研究活動(五六八)

第三節 物理学科……………五六五

旧制の時代(五六五) 物理学科の創設(五六七) 物理学科の変遷(五六六) 大学院の設置(五六九) 実験室などの整備・充実(五六〇) 教官の研究活動(五六二) 学生教育と活動(五六三)

第四節 化学科	六〇五
---------	-----

旧制の時代(六〇五)	化学科の創設(六〇六)	化学科の発展(六〇七)	教官の研究活動(六一)
------------	-------------	-------------	-------------

第五節 生物学科	六一四
----------	-----

旧制の時代(六一四)	生物学科の創設と発展(六一六)	教官の研究活動(六一七)	学生教育・研究(六一八)	標本室などのこと(六一九)
------------	-----------------	--------------	--------------	---------------

環境科学(総合コース)	六二六
-------------	-----

第三章 家政学部	六三〇
----------	-----

第一節 総記	六三〇
--------	-----

旧制時代の技芸科・家事科・家政科(六三〇)	お茶の水女子大学家政学部(六三一)	大学院家政学研究科(修士課程)(六三二)
-----------------------	-------------------	----------------------

第二節 児童学科	六三七
----------	-----

児童学科の創設・講座の沿革(六三七)	児童学科の発展(六三八)	教官の研究活動(六三九)	学生教育・研究(六四〇)
--------------------	--------------	--------------	--------------

第三節 食物学科	六四五
----------	-----

旧制の時代(六四五)	学科・講座の制度的沿革(六四六)	教官の主な研究活動(六四七)	学生教育と研究(六四八)
------------	------------------	----------------	--------------

第四節 被服学科	六五一
----------	-----

旧制時代の担当教官(六五一)	新制大学設立後の学科・講座の制度的沿革(六五二)	教官の研究活動(六五三)	学生教育・研究(六五四)
----------------	--------------------------	--------------	--------------

第五節 家庭経営学科	六六〇
旧制の時代(六六〇)	
新制大学発足後(六六一)	
家庭経営学科の設置と進展(六六二)	
教育の研究活動(六六三)	
学生の研究(六六四)	
第四章 附属施設	六六七
第一節 附属図書館	六六七
御茶の水時代の図書館(六六七)	
大塚移転後(六七八)	
大学附属図書館となって(六七九)	
新図書館の開館(六八〇)	
第二節 臨海実験所	六八二
沿革(六八二)	
研究活動(六八三)	
学生との教育と研究(六八四)	
第三節 食物化学研究施設	六八六
沿革(六八六)	
施設(六八七)	
研究用機器(六八八)	
研究活動(六八九)	
第四節 その他の附属施設	六九五
保健管理センター(六九五)	
女性文化資料館(六九六)	
電子計算機室(六九六)	
ラジオ・アイソトープ実験室(六九九)	
極低温実験室(七〇〇)	
語学練習室(七〇一)	
教育内容研究システム(七〇二)	
志賀高原体育運動場(七〇四)	
学寮(七〇六)	
食堂(七一五)	
第五章 附属学校・幼稚園	七二七
第一節 附属高等女学校	七二七

東京女学校および東京女子師範学校英学科・別科・予科の時代(七二七) 東京女子師範学校附属高等女学校の時代(七二八) 東京高等女学校の時代(七三〇) 女子高等師範学校附属高等女学校の時代(七三三) 東京女子高等師範学校附属高等女学校の時代(七三五) 制服と校章(七三六)

第二節 附属高等学校

七三三

東京女子高等師範学校附属高等学校の時代(七三三) お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校の時代(七三五)
教官の教育研究活動(七三四) 生徒生活の指導(七三四) PTA・同窓会(七三四)

第三節 附属中学校

七三八

東京女子高等師範学校附属中学校の時代(七三六) お茶の水女子大学文教育学部附属中学校の時代(七三九) 教官
の教育研究活動(七三九) 生徒生活の指導(七三九) PTA・同窓会(七三九)

第四節 附属小学校

七六一

東京女子師範学校附属小学校の時代(七四一) 女子高等師範学校附属小学校の時代(七四三) 東京女子高等師範学
校附属小学校の時代(七四七) 東京女子高等師範学校附属国民学校の時代(七五二) お茶の水女子大学文教育学部
附属小学校の時代(七五二) 教官の教育研究活動(七五二) 児童生活の指導(七五二) PTA・同窓会(七五二)

第五節 附属幼稚園

七六三

創設の経過(七六三) 開園当初の保育(七六四) 明治十四年の保育課程改訂と明治十七年の幼稚園規則改訂(七六五)
保姆養成と保育理論の移入(七六八) 中村五六主事と保育研究(七六九) 分室の開設(七七一) フレーベル会の創立
と『婦人と子ども』誌創刊(七七三) 附属幼稚園細則と保育要項の制定(七七四) 「新保育」の模索(七七六) 震災と
仮園舎(七七八) 日本幼稚園協会と幼稚園令の発布(七八〇) 「誘導保育」と保育研究(七八二) 戦時下の保育(七八三)
戦後教育改革と附属幼稚園(七八四) 近年における附属幼稚園の保育(七八五) PTA・同窓会(七八六)

第六節 東村山郊外園	八二
東村山郊外園の誕生(八二) 開設当時の文書および施設(八三) 戦時下の郊外園教育(八三) 戦後の郊外園(八四)	
第六章 桜蔭会	八六
第一節 桜蔭会とその創立	八六
会員(八六) 会の沿革(八六)	
第二節 関東大震災と会の対応	八六
関東大震災と東京連合婦人会(八六) 桜蔭会の対応(八七)	
第三節 桜蔭高等女学校	八三
桜蔭高等女学校の設立(八三) 桜蔭学園の現状(八三)	
第四節 母校昇格運動	八三
運動の経緯(八三)	
第五節 第二次世界大戦とその後の復旧	八四
女子工業教育(八四) 会の戦中・戦後(八五)	
第六節 会員の業績と活動	八七
学術研究上の業績(八七) 教育界における活動(八七) さまざまな分野における活動(八八)	
第七節 会の現況と活動	八九

会の目的と代表者(八五) 講習会・講演会の開催と調査活動(八三) その他の活動(八〇)

年表・付表・付図……………八三

年表(八三) 卒業者数(八四) 教職員定員現員数(八六) 敷地建物略図(八四)

あとがき……………八七